

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|---|----------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (復旧治山) | 事業実施計画期間 | 平成25年度(1年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | きりあけ 切明 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 北信森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は、長野県の北部、栄村の秘境・秋山郷と呼ばれる地域の最奥部に位置し、群馬県・野反湖に端を発し、長野県を経て新潟県へと流れる一級河川・中津川の上流部にある。</p> <p>急峻地が多い大起伏山地に加え、多雨・多雪地帯であることから、荒廃が発生しやすい。平成23年4月の融雪期に山腹斜面が崩壊、崩壊上部から脚部にかけて多量の不安定土砂が堆積しており、今後の降雨等により崩壊地の拡大や土砂流出の危険性が高い。また、すぐ近くには切明温泉の宿泊施設や切明発電所施設等の重要保全施設を有していることから、これら保全対象への被害が懸念される。</p> <p>このため、山腹工の施工により崩壊地の復旧を図り、下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工0.40ha 主な保全対象 人家等3戸 橋梁(村道)1箇所 村道200m 総事業費 70,000千円</p> | | |
| 費用対効果分析 | 総便益(B) | 304,228 | 千円 |
| | 総費用(C) | 67,305 | 千円 |
| | 分析結果(B/C) | 4.52 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | / | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 現在も崩壊地の侵食が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等により崩壊地が拡大し、崩壊土砂により溪流が閉塞し下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧により土砂流出を抑制し下流域の保全を図るため実施するものであり、事業の必要性が十分認められる ・ 効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・ 有効性 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られる事から、事業の有効性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：復旧治山
施行箇所：切明

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評 価 額 | 備 考 |
|-----------------------|--|---------|-----|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 1,347 | |
| | 流域貯水便益 | 526 | |
| | 水質浄化便益 | 1,107 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 156 | |
| 災害防止便益 | 山地災害防止便益 | 301,092 | |
| 総 便 益 (B) | | 304,228 | |
| 総 費 用 (C) | | 67,305 | 千円 |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{304,228}{67,305} = 4.52$ | | |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|---|--------------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (復旧治山) | 事業実施計画期間 | 平成25年度～32年度(8年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | あさひやま 旭山 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 北信森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は長野市中心部、長野県庁の西に位置する標高785mの旭山一帯の地区であり、周辺には戦国時代の旭山城跡や旭山観音があることから、身近な山として多くの人達に親しまれている。</p> <p>また、一帯は保安林や郷土環境保全地域に指定され、多種多様な動植物が生育していることから、自然学習を体験する貴重な場所にもなっている。</p> <p>施工地の地形は極めて急峻、地質は裾花凝灰岩層で風化が進み亀裂が発達しており、岩石の剥離落下や表層浸食が激しく、裾花川への土砂流出が絶えない状況である。山腹崩壊地内には多量の不安定土砂も堆積しており、今後の集中豪雨等により崩壊地の拡大及び不安定土砂の流出により裾花川を閉塞する危険性が危惧される。</p> <p>崩壊地下流は住宅密集地となっており、裾花側が閉塞した場合これら保全対象への被害が懸念される。</p> <p>このため、山腹工の施工により崩壊地の復旧を図り、下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> | | |
| | <p>主な事業内容 山腹工1.68ha 主な保全対象 人家36戸 市道400m 農地0.40ha 総事業費 390,300千円</p> | | |
| 費用対効果分析 | 総便益(B) | 1,038,520 千円 | |
| | 総費用(C) | 334,863 千円 | |
| | 分析結果(B/C) | 3.10 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要性 現在も崩壊地の侵食が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等により崩壊地が拡大し、崩壊土砂により溪流が閉塞し下流の住宅密集地に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧により土砂流出を抑止し下流域の保全を図るため実施するものであり、事業の必要性が十分認められる ・効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・有効性 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られる事から、事業の有効性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：復旧治山
施行箇所：旭山

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評 価 額 | 備 考 |
|-----------------------|--|-----------|--------|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 6,340 | |
| | 流域貯水便益 | 1,066 | |
| | 水質浄化便益 | 2,269 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 507 | |
| 災害防止便益 | 山地災害防止便益 | 1,028,338 | |
| 総 便 益 (B) | | 1,038,520 | |
| 総 費 用 (C) | | 334,863 | 千円 |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{1,038,520}{334,863}$ | | = 3.10 |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|---|----------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (生活環境保全林整備) | 事業実施計画期間 | 平成25年度～29年度(5年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | ^{とがくし} 戸隠 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 北信森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は、長野県の北部、戸隠山、飯縄山に囲まれた高原地帯に位置し、大部分は保安林や上信越高原国立公園に指定されている。 周辺には戸隠奥社や戸隠キャンプ場、戸隠スキー場などがあり、年間を通じて多くの観光客が訪れている。 戸隠森林植物園は、戸隠神社奥社に隣接する約70haの広大な自然園となっており、植物や野鳥の宝庫で森林浴とともに植物観察やパードウォッチングが楽しめる場となっている。 園内にはこれまで保安林の環境保全機能や防災機能の発揮を目的に、車椅子用の歩道等を整備してきたところであるが、永年劣化による歩道の老朽化が激しくなっており、来訪者の安全確保が危惧される。 このため、老朽化した歩道の改良を行い、自然環境・生活環境の保全を図るとともに、来訪者の安全を確保することを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 歩道460m 主な保全対象 見込み入り込み者数 155千人/年 総事業費 74,000千円</p> | | |
| 費用対効果分析 | 総便益(B) | 685,380 | 千円 |
| | 総費用(C) | 66,438 | 千円 |
| | 分析結果(B/C) | 10.32 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 多くの来場者が有り、現状での施設放置は利用者の事故を引き起こす原因になりかねない。またレクリエーション等の保健、休養の場としても利用できなくなるため、本事業による改良を実施することで、利用者の安全確保が図られ快適な利用が出来るようになる、よって事業の必要性が十分認められる。 ・ 効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・ 有効性 戸隠森林植物園には毎年15万人以上の観光客が森林浴や植物観察等に訪れている。本事業の実施により、レクリエーション等の保健、休養の場としてさらに多くの観光客が利用し安全に過ごすことが出来、公衆の保健・衛生に大きく貢献する事から、事業の有効性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：生活環境保全林整備
施行箇所：戸隠

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大区分 | 中区分 | 評価額 | 備 考 |
|-----------|--------|-------------------------------------|---------|
| 環境保全便益 | 保健休養便益 | 685,380 | |
| 総 便 益 (B) | | 685,380 | |
| 総 費 用 (C) | | 66,438 | 千円 |
| 費用便益比 | | $B \div C = \frac{685,380}{66,438}$ | = 10.32 |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|---|------------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (復旧治山) | 事業実施計画期間 | 平成25年度～平成27年度(3年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | いわこやまわ 岩小屋沢 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 中信森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は長野県大町市の西部に位置し、地質は糸魚川-静岡構造線の造山運動により破砕が進行した中古生層の堆積岩とこれに上載した火山岩により形成されている。</p> <p>この地質的な脆弱さと冬季の厳しい気象条件によって、周辺の高山地帯は破砕・侵食作用を受け大量の石礫が流出し溪床内に堆積を繰り返している。さらに豪雪地帯であることから融雪期にはなだれや増水を引き起こし、溪床や溪岸を侵食しながら流下している。また、既設ダム郡の最上流部では、ダムの袖分を乗り越えるまでに流下土石が過剰堆積するとともに二次侵食が旺盛なことから、既設構造物を破損させる恐れがある。</p> <p>事業箇所下流域には立山黒部アルペンルートの扇沢駅があり、山岳地への観光客や登山客が集中する重要な場所であり、集中豪雨や融雪時には大量の土石が流下する危険性が極めて高く早急な対策工が必要である。</p> <p>このため、既設溪間工(嵩上工)による不安定土砂の現地固定と縦断勾配の緩和、ダム機能を回復させ、横侵食防止と乱流防止を目的とした護岸工を計画することで既設ダム上流の土砂流出防止機能の強化を図り下流域への土石の流下を抑止することで下流域の公共施設等の保全を図ることを目的とし本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 溪間工1基 護岸工2基 主な保全対象 扇沢駅1.0箇所 管理用道路740m 総事業費 148,000千円</p> | | |
| 費用対効果分析 | 総 便 益 (B) | 296,684 千円 | |
| | 総 費 用 (C) | 137,979 千円 | |
| | 分析結果 (B/C) | 2.15 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 溪床内には土砂が多量に堆積しており、放置すると今後の集中豪雨等の際に流出し下流に被害を与える恐れが高い。この為、既設溪間工の嵩上と護岸工の施工により、山脚の固定と不安定土砂の流出を抑制し、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。 ・ 効率性 対策工の計画に当たっては、現地状況に応じた適切な工種・工法で検討し、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・ 有効性 本事業を実施することにより、不安定土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、本事業の有効性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：復旧治山
施行箇所：岩小屋沢

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評価額 | 備 考 |
|-----------------------|--------------------------------------|---------|--------|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 3,846 | |
| | 流域貯水便益 | 1,108 | |
| | 水質浄化便益 | 2,358 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 466 | |
| 災害防止便益 | 山地災害防止便益 | 288,906 | |
| 総 便 益 (B) | | 296,684 | |
| 総 費 用 (C) | | 137,979 | 千円 |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{296,684}{137,979}$ | | = 2.15 |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|--|----------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (復旧治山) | 事業実施計画期間 | 平成25年度(1年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | よこかわ めぐろざわ 横川(目黒沢) (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 中信森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は長野県北安曇郡小谷村北部に位置し、新潟県との県境にあたる雨飾山を北方に置き、事業地周辺は古くから災害を繰り返している地すべり多発地帯である。南東に位置する大渚山からの姫川水系横川が峡谷を刻みながら西流し、また、雨飾山から流下する前沢が合流し、その下流側には水力発電施設(横川電力第一発電所)が位置する。</p> <p>周辺地域は糸魚川-静岡構造線に沿った北部フォッサマグナに属し、姫川断層をはじめとする複数の活断層が存在し、極めて脆弱な地質構造を呈している。</p> <p>事業地末端には併用林道横川鎌池線が通過し、日本百名山の一つである雨飾山へ訪れる登山客をはじめとする来訪者にも利用されている。また、その併用林道下部には横川電力第一発電所の水力発電用取水施設があり、集中豪雨や融雪時に崩壊地拡大による影響が大きく早急な対策工が必要である。</p> <p>当該崩壊地は土砂生産地帯の裸地化した不安定な状態の斜面が自然現象により激しく浸食が進行している。</p> <p>このため、地盤の固定と斜面の土砂移動を防止し、植生の誘導により早急に斜面の安定を図り、山腹基礎工(吹付工)を計画し、下流域への土砂流出を抑止することで公共施設等の保全を図ることを目的とし本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.32ha 主な保全対象 林道255m 発電施設1箇所 総事業費 32,000千円</p> | | |
| 費用対効果分析 | 総便益(B) | 63,686 | 千円 |
| | 総費用(C) | 30,768 | 千円 |
| | 分析結果(B/C) | 2.07 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 崩壊地内の不安定土砂の状況から、このまま放置すると今後の集中豪雨等の際に、崩壊地拡大や不安定土砂が流出し直下の林道等に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧により、下流域の保全を図るため実施するものであり必要性は十分認められる。 ・ 効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討し、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・ 有効性 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表

(治山事業)

事業名：復旧治山
 施行箇所：横川(目黒沢)

都道府県名：長野
 (単位:千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評 価 額 | 備 考 |
|-----------------------|---|--------|-----|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 2,398 | |
| | 流域貯水便益 | 806 | |
| | 水質浄化便益 | 1,711 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 187 | |
| 災害防止便益 | 山地災害防止便益 | 58,584 | |
| 総 便 益 (B) | | 63,686 | |
| 総 費 用 (C) | | 30,768 | 千円 |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{63,686}{30,768} = 2.07$ | | |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|---|-----------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (復旧治山) | 事業実施計画期間 | 平成25年度(1年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | 魚止沢 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 東信森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は、長野県東部南佐久郡南相木村の御座山南東の群馬県境に位置し、鋭く急峻な斜面が連なり、浸食が進んだ壮年期地形を呈している。地質は中古生層のゆるみが生じ脆弱であるため、地下水型の崩壊発生し浸食活動が旺盛である。林況はカラマツの人工林が多く全体の40%をしめており、その大半が林齢20年前後である。また全域が水源涵養保安林に指定されている。</p> <p>平成19年9月の台風9号をはじめとする集中豪雨により、徐々に崩壊地が拡大し魚止沢に土砂を流出している。生産された土砂は溪流内に堆積しており徐々に堆積量を増やし不安定土砂化の様相を呈している。</p> <p>このため山腹工の施工により崩壊地の復旧を図り、土砂生産を抑止し下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工 0.51ha 主な保全対象 林道 218m 橋梁2基 総事業費 30,000千円</p> | | |
| 費用対効果分析 | 総便益(B) | 70,739 千円 | |
| | 総費用(C) | 28,845 千円 | |
| | 分析結果(B/C) | 2.45 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | / | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 現在も崩壊地の侵食が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等の際に、崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流域に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧により土砂生産を抑止し下流域の保全を図るため実施するものであり、事業の必要性が十分認められる。 ・ 効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・ 有効性 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られる事から、事業の有効性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：復旧治山事業
施行箇所：魚止沢

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評価額 | 備 考 |
|-----------------------|------------------------------------|--------|--------|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 1,853 | |
| | 流域貯水便益 | 491 | |
| | 水質浄化便益 | 1,036 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 195 | |
| 災害防止便益 | 山地災害防止便益 | 67,164 | |
| 総 便 益 (B) | | 70,739 | |
| 総 費 用 (C) | | 28,845 | 千円 |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{70,739}{28,845}$ | | = 2.45 |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|---|------------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (復旧治山) | 事業実施計画期間 | 平成25年度～平成28年度(4年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | にしまたさわ 西股沢 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 東信森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は、長野県東部南佐久郡川上村の南部に位置し、山梨県境の国師ヶ岳、朝日岳、金峰山を結ぶ稜線の直下に位置し上流部は急峻、高冷地で自然環境が厳しく、凍結・融解による風化が進んでいる。また、比較的大きな崩壊があり、豪雨や台風通過時に土砂崩壊を引き起こし、渓床内に不安定土砂が堆積している。</p> <p>また当該地区は、秩父多摩甲斐国立公園の西部で日本百名山とされる金峰山を要し、山頂直下にある金峰山小屋は年中登山客が訪れ、登山道も利用されている。また下流保全対象には、廻り目平キャンプ場があり、宿泊施設でもある、村営金峰山荘も営業されており、夏場には多くの観光客が訪れる場所でもあります。</p> <p>近年では平成23年9月の台風15号がもたらした大雨により新生崩壊が発生し、登山道の破損渓流内への土砂が流出するなどの被害をもたらした。</p> <p>このため、溪間工の施工により渓流内の不安定土砂の流出抑制と山脚の固定を図り、下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に事業を実施するものである。</p> | | |
| | <p>主な事業内容 溪間工10基 主な保全対象 旅館1戸 町道200m 林道1410m 橋梁4箇所 総事業費 133,000千円</p> | | |
| 費用対効果分析 | 総便益(B) | 349,445 千円 | |
| | 総費用(C) | 121,612 千円 | |
| | 分析結果(B/C) | 2.87 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | / | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 渓流内の不安定土砂の堆積や崩壊地の拡大侵食が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等により土石流となり下流に被害を与える恐れが高い。このため、不安定土砂の固定や、溪流勾配の緩和により下流域の保全を図るために実施するものであり、事業の必要性が十分認められる。 ・ 効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・ 有効性 本事業を実施することにより、溪間工で渓流内の不安定土砂の固定による、土砂流出が抑制され下流域の保全が図られる事から、事業の有効性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：復旧治山
施行箇所：西股沢

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評 価 額 | 備 考 |
|-----------------------|---|---------|-----|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 37,104 | |
| | 流域貯水便益 | 11,475 | |
| | 水質浄化便益 | 24,295 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 3,275 | |
| 災害防止便益 | 山地災害防止便益 | 273,296 | |
| 総 便 益 (B) | | 349,445 | |
| 総 費 用 (C) | | 121,612 | 千円 |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{349,445}{121,612} = 2.87$ | | |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|---|-----------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (生活環境保全林整備) | 事業実施計画期間 | 平成25年度～平成28年度(4年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | せんがたまきさわ 千ヶ滝沢 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 東信森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は、長野県東部北佐久郡軽井沢町の中軽井沢北エリアに位置し多くの観光客が訪れる名瀑千ヶ滝があり、周辺はカラマツやアカマツの人工林や広葉樹林に囲まれ自然探勝の場となっており保健休養等の環境保全や防災機能の発揮が望まれている。</p> <p>平成9年から平成11年にかけて生活環境保全林整備事業において、治山施設、森林造成、付帯施設等を設置し、軽井沢町と協定を結び管理してきた。しかし経年の変化による木道・木橋・手摺等の痛みが激しく、通行止めにする事態となっており施設利用が出来ない状況である。このため老朽化が著しい管理歩道について、木栈道・木道・木橋等の改良を実施し、来訪者の安全確保と利用の促進を図るための事業実施である。</p> <p>主な事業内容 歩道補修1000m・木橋補修4基(木栈道・木道・板張り木道) 看板補修1基・河川整理1800m²</p> <p>主な保全対象</p> <p>総事業費 90,000千円</p> | | |
| 費用対効果分析 | 総便益(B) | 276,235千円 | |
| | 総費用(C) | 81,146千円 | |
| | 分析結果(B/C) | 3.40 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要性 多くの来場者が有り、現状での施設放置は利用者の事故を引き起こす原因になりかねない。またレクリエーション等の保健、休養の場としても利用できなくなるため、本事業による改良を実施することで、利用者の安全確保が図られ快適な利用が出来るようになる、よって事業の必要性が十分認められる。 ・効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・有効性 軽井沢町には毎年700万人以上の観光客が来訪し、その大半は自然・観察を楽しみに訪れている、本事業の実施により、レクリエーション等の保健、休養の場としてさらに多くの観光客が利用し安全に過ごすことが出来、公衆の保健・衛生に大きく貢献する事から、事業の有効性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：生活環境保全林整備
施行箇所：千ヶ滝沢

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評価額 | 備 考 |
|-----------|--------|-------------------------------------|--------|
| 環境保全便益 | 保健休養便益 | 276,235 | |
| 総 便 益 (B) | | 276,235 | |
| 総 費 用 (C) | | 81,146 | 千円 |
| 費用便益比 | | $B \div C = \frac{276,235}{81,146}$ | = 3.40 |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|--|----------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (復旧治山) | 事業実施計画期間 | 平成25年～平成32年度(8年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | おぐらがわ 小黒川 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 南信森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は、長野県伊那市長谷の北東部に位置し、中央構造線の東側の秩父帯にかかる一帯で、全域が大起伏山地に属し急峻地形が発達している。秩父帯は粘板岩・砂岩・礫岩などの堆積岩帯が広く分布し風化剥離による崩落が発生しやすく、地区内には崩壊箇所が点在している。</p> <p>平成24年6月19日の台風4号による豪雨により、既存の崩壊地が拡大崩壊し、約3,900m³の土砂が流出し、直下にある黒河内併用林道を寸断するとともに小黒川を一部閉塞させる被害が発生した。また、この他にも溪岸侵食に起因する崩壊地などが点在しており、今後の集中豪雨等により崩壊地の拡大等により林道への被害や下流域への土砂流出が危惧される。</p> <p>当地区は、美和ダムの水源地帯となっており、黒河内併用林道については、森林整備のための重要な幹線道路であるとともに、南アルプス登山基地である戸台地区と入笠山周辺の自然探勝地区を結ぶ路線で利用者も多く重要な路線となっている。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の早期復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を抑制し、下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> | | |
| | <p>主な事業内容 山腹工 1.25ha 溪間工 8基 主な保全対象 林道 2,090m 総事業費 356,000 千円</p> | | |
| 費用対効果分析 | 総便益(B) | 543,049 | 千円 |
| | 総費用(C) | 302,175 | 千円 |
| | 分析結果(B/C) | 1.80 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 溪床に堆積した不安定土砂や崩壊地の状況から、放置すると今後の集中豪雨等の際に、崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧と不安定土砂の流出を抑制し、下流域の保全を図るため実施するものであり、本事業の必要性は十分認められる。 ・ 効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・ 有効性 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：復旧治山
施行箇所：小黒川

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評価額 | 備 考 |
|-----------------------|--------------------------------------|---------|--------|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 54,033 | |
| | 流域貯水便益 | 22,409 | |
| | 水質浄化便益 | 47,437 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 6,024 | |
| 災害防止便益 | 山地災害防止便益 | 413,146 | |
| 総 便 益 (B) | | 543,049 | |
| 総 費 用 (C) | | 302,175 | 千円 |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{543,049}{302,175}$ | | = 1.80 |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|---|----------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (復旧治山) | 事業実施計画期間 | 平成25年～平成28年度(4年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | よこかわ 横川 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 南信森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は、長野県上伊那郡辰野町の西部に位置し、天竜川最上流域の右岸で、地形は急峻で深い谷を形成する大起伏山地である。地質は、西南日本内帯、美濃帯の奈良井層と横川層に属し、泥岩(粘板岩)、砂岩等で構成され脆弱である。</p> <p>下流にはキャンプ場、国指定天然記念物「蛇石」と呼ばれる景勝地があり、観光客等の入り込みが多い。また、その下流には、洪水調節・不特定利水を目的とした横川ダムがあり、当流域はその水源地として重要な流域である。</p> <p>当流域では平成18年7月の集中降雨により支流の瀬戸沢に発生した大規模な崩壊地をはじめ各所に崩壊地が発生し、渓床内には土砂・立木が堆積しており、事業地である黒沢谷では、直下にある林道への土砂流出、橋梁の橋脚洗掘の被害が発生している。</p> <p>このため、溪間工による山脚固定と不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全及び保安林機能の増進を図る事を目的とし本事業を行うものである。</p> | | |
| | <p>主な事業内容 溪間工 7基 主な保全対象 林道 634m 橋梁 1箇所 総事業費 150,000千円</p> | | |
| 費用対効果分析 | 総便益(B) | 189,155 | 千円 |
| | 総費用(C) | 138,796 | 千円 |
| | 分析結果(B/C) | 1.36 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | / | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 渓床に堆積した不安定土砂や崩壊地の状況から、放置すると今後の集中豪雨等の際に、不安定土砂が流出し被害を与える恐れが高い。このため、不安定土砂の流出を抑制し、下流域の保全を図るため実施するものであり、本事業の必要性は十分認められる。 ・ 効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・ 有効性 本事業を実施することにより、不安定土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、本事業の有効性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：復旧治山
施行箇所：横川

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評価額 | 備 考 |
|-----------------------|----------|--------------------------------------|--------|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 32,803 | |
| | 流域貯水便益 | 3,867 | |
| | 水質浄化便益 | 8,183 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 1,215 | |
| 災害防止便益 | 山地災害防止便益 | 143,087 | |
| 総 便 益 (B) | | 189,155 | |
| 総 費 用 (C) | | 138,796 | 千円 |
| 費用便益比 | | $B \div C = \frac{189,155}{138,796}$ | = 1.36 |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|---|----------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (復旧治山) | 事業実施計画期間 | 平成25年度(1年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | てらさわ 手良沢 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 南信森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は、長野県伊那市、天竜川東岸に位置し、領家帯変成岩にかかる一帯で、粘板岩・泥岩・砂岩などが主である。いずれも極めて脆弱な地質構造で、地区内には崩壊箇所が点在している。</p> <p>平成24年7月の豪雨により直下林道へ多量の土砂が流出、これにより林道が被災し、一時通行不能となる。下流の集落においては、田畑への土砂流入・集落内の水路閉塞等による被害が出た。渓床内には、渓岸侵食に起因する土砂が堆積しており、今後の集中豪雨等による林道への被害や下流域への土砂流出が危惧される。</p> <p>当地区は、伊那市の水源地帯となっており、直下の沢山林道については、森林整備のための重要な幹線道路であるとともに、信州大学演習林にも利用される重要な路線となっている事から、治山工事を行い、荒廃渓流における山脚の固定と不安定土砂の流出を抑制し、下流域の保全及び保安林機能の増進を図りたい。</p> <p>主な事業内容 溪間工 2.0基 主な保全対象 林道 300m 総事業費 18,000千円</p> | | |
| 費用対効果分析 | 総便益(B) | 68,973 | 千円 |
| | 総費用(C) | 17,307 | 千円 |
| | 分析結果(B/C) | 3.99 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要性 渓床に堆積した不安定土砂の状況から、放置すると今後の集中豪雨等の際に、不安定土砂が流出し被害を与える恐れが高い。このため、溪間工により不安定土砂の流出を抑制し、下流域の保全を図るため実施するものであり、本事業の必要性は十分認められる。 ・効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・有効性 本事業を実施することにより、不安定土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：復旧治山
施行箇所：手良沢

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評価額 | 備 考 |
|-----------------------|----------|---|-----|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 1,410 | |
| | 流域貯水便益 | 538 | |
| | 水質浄化便益 | 1,121 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 165 | |
| 災害防止便益 | 山地災害防止便益 | 65,739 | |
| 総 便 益 (B) | | 68,973 | |
| 総 費 用 (C) | | 17,307 | 千円 |
| 費用便益比 | | $B \div C = \frac{68,973}{17,307} = 3.99$ | |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|---|----------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (復旧治山) | 事業実施計画期間 | 平成25年度(1年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | おぐろさわ 小黒沢 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 南信森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は、長野県伊那市長谷の南東部に位置し、中央構造線の東側の秩父帯にかかる一帯で、全域が大起伏山地に属し急峻地形が発達している。秩父帯は粘板岩・泥岩・緑色片岩などの堆積岩帯が広く分布しており極めて脆弱な地質構造で、地区内には崩壊箇所が点在している。</p> <p>平成23年5月11日の豪雨により溪岸浸食が発生し、崩壊土砂は、流木を巻き込みながら下流の三峰川まで達すると共に、直下を渡河している橋梁の上部工への被災、橋台の一部を破損する被害が発生した。また、この他にも溪床内には、溪岸浸食に起因する崩壊地などが点在しており、今後の集中豪雨等による林道・橋梁への被害や下流域への土砂流出が危惧される。</p> <p>当地区は、伊那市の水源地帯となっており、直下の三峰川林道については、森林整備のための重要な幹線道路であるとともに、塩見岳等への登山にも利用される重要な路線となっている事から、H24年度より災害関連緊急治山工事として早期復旧を目指しているところであり、引き続き、H25年度においても、治山工事を行い、荒廃溪流における山脚の固定と不安定土砂の流出を抑制し、下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的とし本事業を実施するものである。</p> <p style="text-align: center;"> 主な事業内容 溪間工 1.5基 主な保全対象 林道 360m 橋梁 1基 総事業費 25,000千円 </p> | | |
| 費用対効果分析 | 総便益(B) | 121,648 | 千円 |
| | 総費用(C) | 24,038 | 千円 |
| | 分析結果(B/C) | 5.06 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 溪流内の不安定土砂の堆積や崩壊地の拡大侵食が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等により土石流となり下流に被害を与える恐れが高い。このため、事業の実施による溪流や斜面の安定は下流域の保全を図るために実施するものであり、事業の必要性が十分認められる。 ・ 効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・ 有効性 本事業を実施することにより、溪間工の施工や山腹工による崩壊地の復旧するとともに不安定土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られる事から、事業の有効性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：復旧治山
施行箇所：小黒沢

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評価額 | 備 考 |
|-----------------------|--|---------|-----|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 1,349 | |
| | 流域貯水便益 | 400 | |
| | 水質浄化便益 | 886 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 116 | |
| 災害防止便益 | 山地災害防止便益 | 118,897 | |
| 総 便 益 (B) | | 121,648 | |
| 総 費 用 (C) | | 24,038 | 千円 |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{121,648}{24,038} = 5.06$ | | |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|--|------------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (復旧治山) | 事業実施計画期間 | 平成25年度～平成29年度(5年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | じょうやま 城山 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 木曾森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は、長野県木曾町福島の木曾川右岸に位置している。地質は、固形堆積物の砂岩・泥岩で構成され、断層活動に伴う破砕作用を受けた基岩は、不規則な節理や割れが発達している。降雨、凍結融解等の気象条件は、節理や割れから基岩の風化や崩壊を進行させ、岩塊状の形状で断続的に落石の生産が行われ山腹荒廃の拡大につながっている。</p> <p>事業地は、観光名所「城山」の南東斜面で、直下には人家・小学校・郡民会館・車道・遊歩道等があるため、町民の日常的な利用のほか、行楽シーズンには多くの観光客で賑わいを見せる場所である。</p> <p>近年の短時間豪雨等による落石の発生頻度が高く、地元木曾町からも落石防止対策の早期実施について強い要望がある。</p> <p>このことから、山腹斜面の落石発生源における落石防止工(ロープ伏工・掛工、転石整理工)を実施し、人家等の保全及び地域住民の安全・安心な通行を確保することを目的とし本事業を実施するものである。</p> <p>主な事業内容 山腹工(落石防止工) 25.48ha 主な保全対象 人家 16戸 公共施設 1戸 町道 470m 林道 710m 総事業費 199,000 千円</p> | | |
| 費用対効果分析 | 総便益(B) | 483,103 千円 | |
| | 総費用(C) | 177,893 千円 | |
| | 分析結果(B/C) | 2.72 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要性 近年、落石等の発生頻度が年々高まっており、放置すれば、直下の人家や町道通行者への被害が懸念されることから、落石防止工により岩塊等の安定化を図り、地域住民や観光客の安全・安心を確保するための事業であり、必要性は十分認められる。 ・効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・有効性 本事業を実施することにより、落石発生源が安定化し、直下の人家等が保全されるとともに、町道通行者の安全・安心が確保されることから、本事業の有効性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：復旧治山
施行箇所：城山

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評 価 額 | 備 考 |
|-----------|----------|--------------------------------------|--------|
| 災害防止便益 | 山地災害防止便益 | 483,103 | |
| 総 便 益 (B) | | 483,103 | |
| 総 費 用 (C) | | 177,893 | 千円 |
| 費用便益比 | | $B \div C = \frac{483,103}{177,893}$ | = 2.72 |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|---|------------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (復旧治山) | 事業実施計画期間 | 平成25年度～平成31年度(7年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | 小ワサビ沢 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 木曾森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は長野県木曾郡木祖村の北部、木曾川の源流域に位置する「鉢盛山」の下にあり、峰越林道「鉢盛山線」の上下斜面に位置する。平均斜度50度を超える急峻な地形と著しく風化の進んだ花崗岩からなる脆弱な地質構造を有しており、近年の短時間豪雨と凍結融解により山腹崩壊が年々拡大し、多量の土砂を生産している。</p> <p>斜面下部を通過する峰越林道「鉢盛山線」は、かつて鉢盛山登山者等の利用があったが、山腹からの落石等により利用者の安全の確保ができない状況にあることから「通行止」となっている。</p> <p>現在も山腹からの土砂や石礫が当該林道と小ワサビ沢へ被害を及ぼしており、地元からも荒廃地復旧への強い要望があることから、山腹工による崩壊地の早期復旧と溪間工による不安定土砂の安定化により、林道の安全な通行確保と下流域への保全を図る。</p> <p>主な事業内容 山腹工 1.20ha 溪間工 6基 主な保全対象 村道 1,000m 林道 530m 橋 2箇所 総事業費 260,490 千円</p> | | |
| 費用対効果分析 | 総 便 益 (B) | 377,315 千円 | |
| | 総 費 用 (C) | 226,589 千円 | |
| | 分析結果 (B/C) | 1.67 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | / | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 現在も崩壊地の侵食が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等の際に、崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流域に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧により土砂生産を抑止し下流域の保全を図るため実施するものであり、事業の必要性が十分認められる。 ・ 効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・ 有効性 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られる事から、事業の有効性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表 (治山事業)

事業名：復旧治山
施行箇所：小ワサビ沢

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評 価 額 | 備 考 |
|-----------------------|---|---------|-----|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 10,153 | |
| | 流域貯水便益 | 6,964 | |
| | 水質浄化便益 | 14,726 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 1,075 | |
| 災害防止便益 | 山地災害防止便益 | 344,397 | |
| 総 便 益 (B) | | 377,315 | |
| 総 費 用 (C) | | 226,589 | 千円 |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{377,315}{226,589} = 1.67$ | | |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|---|----------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (復旧治山) | 事業実施計画期間 | 平成25年度(1年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | 崩 ^{くず} 沢 ^{さわ} (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 木曾森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は、長野県木曾郡王滝村の「池の越」集落の上流2km地点に位置し、一級河川王滝川に注ぐ右岸支渓流である。下流域には中京圏の水瓶である牧尾ダムがあり、その水源地帯となっている。</p> <p>地形は、上流部は比較的緩やかで起伏量も少ないが、下流部は、比高の大きい壮年期の地形で谷密度も大きい。地質は、節理が著しい風化安山岩を基岩とする脆弱な地質構造にあることから、山岳気象特有の凍結融解により風化作用が進んでおり、平成23年4月の融雪により表面侵食型の崩壊が発生したものである。この崩壊により、崩沢林道支線は崩落土砂が堆積し、現在通行不可能な状況にあり、そのまま放置すれば更なる拡大崩壊による土砂流出により王滝川の支渓流「東俣」への流入土砂が増加し、下流域への被害も懸念される。</p> <p>ことから、山腹工施工により早期に崩壊地の復旧を図り、下流域の保全及び保安林機能の増進を目的に本事業を実施するものである。</p> | | |
| | <p>主な事業内容 山腹工 0.09 ha 主な保全対象 林道 100m 総事業費 19,000 千円</p> | | |
| 費用対効果分析 | 総便益(B) | 24,907 | 千円 |
| | 総費用(C) | 18,269 | 千円 |
| | 分析結果(B/C) | 1.36 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | / | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 現在も崩壊地の侵食が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等の際に、崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流域に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧により土砂生産を抑止し下流域の保全を図るため実施するものであり、事業の必要性が十分認められる。 ・ 効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・ 有効性 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られる事から、事業の有効性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1


便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：復旧治山
施行箇所：崩沢

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評価額 | 備 考 |
|-----------------------|------------------------------------|--------|--------|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 759 | |
| | 流域貯水便益 | 515 | |
| | 水質浄化便益 | 1,092 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 145 | |
| 災害防止便益 | 山地災害防止便益 | 22,396 | |
| 総 便 益 (B) | | 24,907 | |
| 総 費 用 (C) | | 18,269 | 千円 |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{24,907}{18,269}$ | | = 1.36 |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|---|------------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (復旧治山) | 事業実施計画期間 | 平成25年度～平成32年度(8年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | せんみさわ センミ沢 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 木曾森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当該地区は長野県木曾郡木祖村の北部、木曾川の源流域の支流に位置する。 平均斜度40度を超える急峻な地形と著しく風化の進んだ花崗岩・砂岩・粘板岩からなる脆弱な地質構造を有しており、近年の短時間豪雨と凍結融解作用により年々山腹崩壊が拡大し、下流域に多量の土砂を生産している。 当該地区には林道・村道が通過し、一方、下流域には味噌川ダムがあり、地元木祖村や水資源機構からも、当該地区の保全に対する強い要望があるこのため、山腹工の施工により崩壊地の早期復旧、溪間工による山脚の固定と不安定土砂の流出を抑制し、下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p style="text-align: center;"> 主な事業内容 山腹工 1.08ha 溪間工 10基 主な保全対象 林道 1,000m 橋 2箇所 総事業費 281,820 千円 </p> | | |
| 費用対効果分析 | 総便益 (B) | 318,536 千円 | |
| | 総費用 (C) | 237,655 千円 | |
| | 分析結果 (B/C) | 1.34 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 |  | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 現在も崩壊地の侵食が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等の際に、崩壊地の拡大や不安定土砂が流出し下流域に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧により土砂生産を抑制し下流域の保全を図るため実施するものであり、事業の必要性が十分認められる。 ・ 効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・ 有効性 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧するとともに不安定土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られる事から、事業の有効性が認められる。 <p style="text-align: center;"> 新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。 </p> | | |

様式1

便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：復旧治山
施行箇所：センミ沢

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評価額 | 備 考 |
|-----------------------|----------|---|-----|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 28,121 | |
| | 流域貯水便益 | 22,124 | |
| | 水質浄化便益 | 46,837 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 2,812 | |
| 災害防止便益 | 山地災害防止便益 | 218,642 | |
| 総 便 益 (B) | | 318,536 | |
| 総 費 用 (C) | | 237,655 | 千円 |
| 費用便益比 | | $B \div C = \frac{318,536}{237,655} = 1.34$ | |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|--|-------------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (復旧治山) | 事業計画期間 | 平成25年度～平成27年度(3年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | おがわいり 小川入 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 木曾森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は、長野県上松町の西部で、東の木曾山脈と西の御嶽山に挟まれた木曾川右岸の赤沢下流部に位置する。地質は砂岩や粘板岩の変成岩と貫入した花崗岩で構成され、花崗岩は節理が形成され不規則な割れ目が発達している。降雨・凍結融解等により基岩の風化や崩壊が進行し、断続的に岩塊が生産され落石や山腹荒廃の拡大につながっている。</p> <p>上流の赤沢地域は、観光名所で森林浴発祥の地でもある「赤沢自然休養林」があり「森林セラピー基地・セラピーロード」の認定を受け県内外から年間13万人以上の利用者が訪れている。</p> <p>近年、赤沢地区へ通じる町道沿いでは、局所的集中豪雨等による落石の発生頻度が高く、平成23年9月4日には、沿線山腹からの落石があり、来園者が一時閉じ込められる事態が発生した。落石危険箇所は山腹斜面に多数点在し落石を繰り返しており、一般通行車両を巻き込む落石災害が危惧されることから地元上松町からも落石防止対策への強い要望がある。</p> <p>このことから、山腹斜面の落石発生源における落石防止工を実施し、地域住民をはじめ当該休養林利用者の安全・安心な通行を確保することを目的とし本事業を実施するものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工(落石防止工) 17.54ha ・主な保全対象 利用者13万人/年 ・総事業費 275,000(千円)</p> | | |
| 費用対効果分析 | 総便益(B) | 568,701(千円) | |
| | 総費用(C) | 253,220(千円) | |
| | 分析結果(B/C) | 2.25 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | | | |
| 評価結果 | <p>・必要性 近年、落石等の発生頻度が年々高まっており、放置すれば、直下の町道利用者への直接被害が懸念されることから、落石防止工により落石発生源の安定化を図り、地域住民や観光客の安全・安心を確保するための事業であり、必要性は十分認められる。</p> <p>・効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。(同一の便益を用いた赤沢地区の生活環境保全林整備事業と合算した場合でもB/Cは1.53となり効率性は認められる。)</p> <p>・有効性 本事業を実施することにより、落石発生源が安定化し、町道通行者の安全・安心を確保できることから、事業の有効性は認められる。</p> <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、効率的かつ効果的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：復旧治山
施行箇所：小川入

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評価額 | 備 考 |
|-----------|---|---------|-----|
| 環境保全便益 | 保健休養便益 | 568,701 | |
| 総 便 益 (B) | | 568,701 | |
| 総 費 用 (C) | | 253,220 | 千円 |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{568,701}{253,220} = 2.25$ | | |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|--|--------------|--------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (生活環境保全林整備) | 事業計画期間 | 平成25年度～平成26年度(2年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | <small>あか さわ</small> 赤 沢 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 木曾森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は、長野県上松町の西部で、東の木曾山脈と西の御嶽山に挟まれた木曾川右岸の赤沢上流に位置する。</p> <p>赤沢地域は、観光名所で森林浴発祥の地でもある「赤沢自然休養林」があり、林齢300年を越える木曾ヒノキの森林は、日本三大美林の一つで、「森林セラピー基地・セラピーロード」の認定を受け県内外から年間10万人以上の利用者が訪れており保健休養等の環境保全や防災機能の発揮が望まれている。</p> <p>同休養林内には、平成7年から平成11年にかけて生活環境保全林整備事業において治山施設、森林造成、付帯施設等を設置したところであるが、18年経過した今日、木道等の脚部や歩行面の腐朽、歪み等が発生しており、利用者及び上松町からも当該施設の改良への強い要望がある。</p> <p>このことから、木製歩道(ふれあいの道)及び広場の改良(鋼製台座及び防腐処理木材の採用等)を実施し、地域住民をはじめ利用者の安全確保と利用の促進を図るため本事業を実施するものである。</p> <p>・主な事業内容 管理歩道改修 790m ・主な保全対象 利用者13万人/年 ・総事業費 125,000 (千円)</p> | | |
| 費用対効果分析 | 総 便 益 (B) | 565,448 (千円) | |
| | 総 費 用 (C) | 117,420 (千円) | |
| | 分析結果 (B/C) | 4.82 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | | | |
| 評価結果 | <p>・必要性 多くの来場者が有り、現状での施設放置は利用者は事故を引き起こす原因となりかねない。また、レクリエーション等の保健休養の場としてもりようできなくなるため、本事業による改良を実施することで利用者の安全確保が図られ快適な利用が出来るようになる、よって事業の必要性が十分認められる。</p> <p>・効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。(同一の便益を用いた小川入地区の復旧治山事業と合算した場合でもB/Cは1.53となり効率性が認められる。)</p> <p>・有効性 年間13万人の観光客が来訪している。本事業の実施により、レクリエーション等保健休養の場としてさらに多くの観光客が利用し安全に過ごすことが出来、公衆の保険・休養に大きく貢献することから、事業の有効性は認められる。</p> <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、効率的かつ効果的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：生活環境保全林整備
施行箇所：赤沢

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評 価 額 | 備 考 |
|-----------|--------|--------------------------------------|--------|
| 環境保全便益 | 保健休養便益 | 565,448 | |
| 総 便 益 (B) | | 565,448 | |
| 総 費 用 (C) | | 117,420 | 千円 |
| 費用便益比 | | $B \div C = \frac{565,448}{117,420}$ | = 4.82 |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|---|-----------|--------------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (復旧治山) | 事業実施計画期間 | 平成25年度(1年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | まるやまさわ 丸山沢 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 木曾森林管理署 南木曾支署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は、長野県南西部の木曾郡南木曾町の木曾川支流与川の左岸に位置している。</p> <p>当該流域の地質は、風化(マサ化)の進んだ粗粒な花崗岩類(伊奈川花崗岩)で構成され非常に脆弱である。また、木曾山地の急峻な地形のうえ、地理的・地形的特性に起因する局所的な集中豪雨が頻発しやすい地形である。</p> <p>事業対象地は、平成18年7月の集中豪雨により丸山沢林道下部に発生した崩壊地で、近年降雨による侵食が旺盛で崩壊地の拡大が進行している。</p> <p>今後の集中豪雨等により更なる拡大崩壊を発生させ、上部林道への被害が危惧されている。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧により崩壊地斜面の表面侵食ならびに更なる拡大崩壊を防止し、下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> | | |
| | <p>主な事業内容 山腹工0.16ha 主な保全対象 林道100m 総事業費 21,000千円</p> | | |
| 費用対効果分析 | 総便益(B) | 44,738 千円 | |
| | 総費用(C) | 20,192 千円 | |
| | 分析結果(B/C) | 2.22 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要性 現在も崩壊地の侵食が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地が拡大し、下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧により下流域の保全を図るため実施するものであり、必要性は十分認められる。 ・効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・有効性 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：復旧治山
施行箇所：丸山沢

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評価額 | 備 考 |
|-----------------------|------------------------------------|--------|--------|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 933 | |
| | 流域貯水便益 | 344 | |
| | 水質浄化便益 | 707 | |
| 山地保全便益 | 土砂流出防止便益 | 16,687 | |
| | 土砂崩壊防止便益 | 24,827 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 1,240 | |
| 総 便 益 (B) | | 44,738 | |
| 総 費 用 (C) | | 20,192 | 千円 |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{44,738}{20,192}$ | | = 2.22 |

事前評価個表

| | | | |
|--------------------|--|----------|--------------------------|
| 事業名 | 国有林直轄治山事業 (復旧治山) | 事業実施計画期間 | 平成25年(1年間) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | たるがさわかりゅう 樽ヶ沢下流 (長野県) | 事業実施主体 | 中部森林管理局 木曾森林管理署 南木曾支署 |
| 事業の概要・目的 | <p>当地区は、長野県南西部の木曾郡大桑村で木曾川に注ぐ阿寺川の支流樽ヶ沢の右岸に位置している。</p> <p>当該流域の地質は、基岩が濃飛流紋岩であることからブロック状に風化が進み脆弱なため、中小豪雨時に縦浸食を繰り返している。また、木曾山地の急峻な地形のうえ、地理・地形的特性に起因する局所的な集中豪雨が頻発しやすい地区である。また、事業地下流の阿寺川は、阿寺溪谷と呼ばれる構造景観が形成されており、レクリエーション及び自然教育の場を提供する重要な地域で風致探勝林に指定され多くの人が訪れている。</p> <p>平成23年5月の集中豪雨により、西山林道下部の山腹斜面に崩壊地が発生し、崩壊土砂は林地を浸食しながら流下し、斜面下方に不安定な状態で堆積している。現在も降雨時に浸食を続けており、今後の集中豪雨等により更なる崩壊拡大による林道への被害及び不安定土砂の流出が危惧される。</p> <p>このため、山腹工による崩壊地の復旧により不安定土砂の流出を防止し、下流域の保全及び保安林機能の増進を図ることを目的に本事業を実施するものである。</p> <p style="margin-top: 20px;"> 主な事業内容 山腹工0.42ha 主な保全対象 林道100m 総事業費 29,000千円 </p> | | |
| 費用対効果分析 | 総便益(B) | 31,600 | 千円 |
| | 総費用(C) | 27,884 | 千円 |
| | 分析結果(B/C) | 1.13 | |
| 森林管理局事業評価技術検討会の意見 | / | | |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 現在も崩壊地の拡大が進んでおり、放置すると今後の集中豪雨等の際に崩壊地が拡大し、下流に被害を与える恐れが高い。このため、山腹崩壊地の復旧により下流域の保全を図るため実施するものであり、必要性は十分認められる。 ・ 効率性 対策工の計画に当たっては、現地の状況に応じた適切な工種・工法で検討されており、費用対効果分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・ 有効性 本事業を実施することにより、崩壊地が復旧し土砂の流出が抑制され下流域の保全が図られることから、事業の有効性は認められる。 <p style="margin-top: 20px;">新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の持つ公益的機能の増進が効率的に計画されているものと認められる。</p> | | |

様式1

便 益 集 計 表
(治山事業)

事業名：復旧治山
施行箇所：樽ヶ沢下流

都道府県名：長野
(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評価額 | 備 考 |
|-----------------------|---|--------|-----|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 2,098 | |
| | 流域貯水便益 | 699 | |
| | 水質浄化便益 | 1,488 | |
| 山地保全便益 | 土砂流出防止便益 | 24,504 | |
| | 土砂崩壊防止便益 | 2,438 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 373 | |
| 総 便 益 (B) | | 31,600 | |
| 総 費 用 (C) | | 27,884 | 千円 |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{31,600}{27,884} = 1.13$ | | |